

幼稚園：中央区立泰明幼稚園

所在地：中央区銀座五丁目1-13

園長：荒川 比呂美

園児数：9名

学級数：1学級

教員数：2名

職員数：1名

※教員数は3名であり、データの客観性の観点から、保護者の割合との比較は不相当であるとする。従って、グラフには保護者の結果のみを示した。重点目標2及び3についても同様である。

1 重点目標の達成状況及び取組状況

◎重点目標全体について

- ・昨年度の反省より、重点目標を作成する時点で、評価指標を分かりやすい文言とし、年間を通して評価できるような形に変化させた。学期毎の保護者会や学級懇談会、日々の教育活動のお知らせなどで、評価指標に触れて説明してきたことで、重点目標について周知・理解され、昨年度より評価が高くなっている傾向にある。
- ・保護者の評価と教員の自己評価の結果がリンクしており、感じたことや教育活動で意図してきた内容が理解されていると評価できる。

◎重点目標1 好奇心や探究心を引き出し、思考力の芽生えを育む

評価項目 ①夢中になって遊べるよう、保育室等の環境を整備する。

②遊びや生活の中で工夫したり試行錯誤したりする楽しさを味わえるよう、教材を準備する。

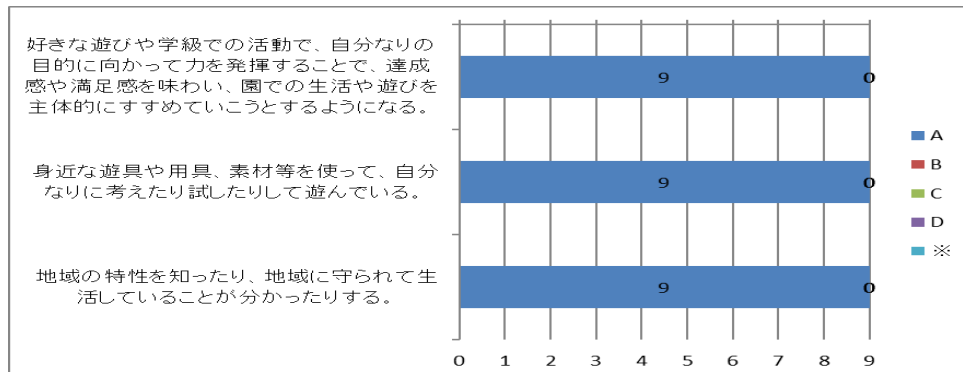
③多様な体験ができるよう、地域環境を生かす。

(交番に飾り物を届ける 日比谷公園に出掛ける ナルニア国で絵本に触れる)

評価指標 ①好きな遊びや学級での活動で、自分なりの目的に向かって力を発揮することで、達成感や満足感を味わい、園での生活や遊びを主体的にすすめていこうとするようになる。

②身近な遊具や用具、素材等を使って、自分なりに考えたり試したりして遊んでいる。

③地域の特性を知ったり、地域に守られて生活していることが分かったりする。



<達成状況>

- ・「十分達成している」が100%の評価をいただいた。

<取組状況(○)及び今後の改善方策(◆)>

○幼児の実態と昨年度の経験を受けて、どのような経験や体験が必要なのか、吟味して教育活動を進めてきた。

◆足りない経験を補うための活動やもっているものを生かす活動を幼児の様子について、毎日話して共有することで、教職員全体で必要なものが何かを検討して教育活動に取り入れてきたことが評価していただけた。少人数だからこそできることだと思われるため、泰明のよさとして継続していく。

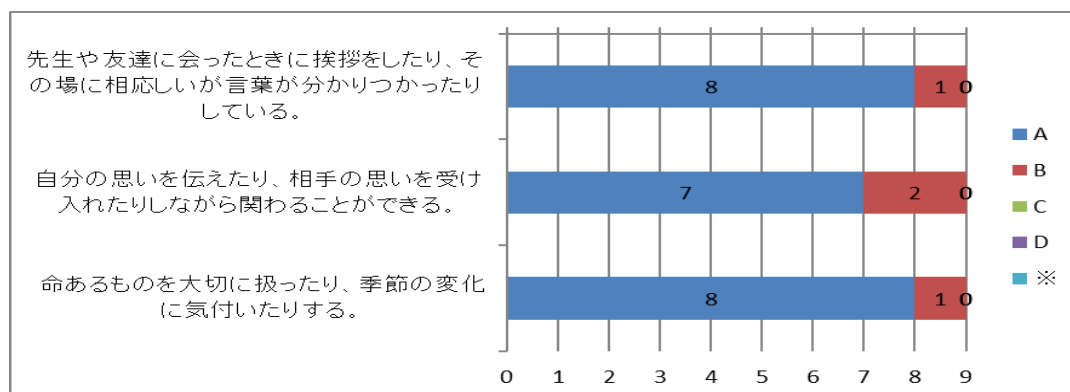
○昨年度評価されたことを受け、特に園外活動(街探検や日比谷公園散歩)について、何のために、何を体験させるかを明確にして活動に取り組むようにし、それを今年度は保護者や地域に発信して伝えることを意識した。

◆保護者には降園時に話すだけでなく、ルクミーや写真掲示で知らせ理解を求めることができた。地域に対しては活動の様子で知らせているが、文字での説明となるため、ぱっと見て分かる形にすることが難しかった。未就園児の会の時に目にできるよう、保護者に掲示したものをあらかじめ掲示しておき、声を掛けて話をする機会はもつように心掛けた。

◎重点目標 2 他者との関わりや自然とのふれあいを通し、豊かな情操を育む

- 評価項目 ①挨拶をする心地よさを感じられるよう、教師が率先して挨拶をする。
 ②小学校や近隣園等異年齢交流を計画的に実施し、多様な感情を味わえるようにする。
 （自己表現する 他者への思いや気持ちを理解し関わる 葛藤する気持ちを調整する）
 ③身近な自然や、周囲の状況に気付かせる援助をする。 （動植物への接し方 栽培活動）

- 評価指標 ①先生や友達に会ったときに挨拶をしたり、その場に相応しいが言葉が分かりつかったりしている。
 ②自分の思いを伝えたり、相手の思いを受け入れたりしながら関わるができる。
 ③命あるものを大切に扱ったり、季節の変化に気付いたりする。



<達成状況>

- ・「十分達成している」が85%、「達成している」を合わせると100%の評価をいただき、重点目標は、ほぼ達成できたと評価できる。

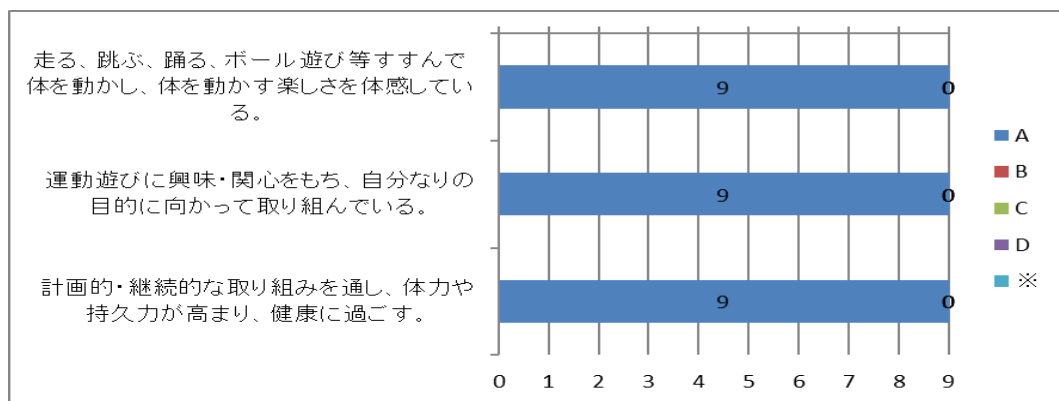
<取組状況（○）及び今後の改善方策（◆）>

- 幼児の実態として、「自分の思いや気持ちを表現する」「自分の気持ちを言葉で相手に伝える」ことが難しい幼児が多い傾向にあったため、評価指標が幼児の実態よりも少し高かった。実態を踏まえ、まずは自分の思いをどのような形でも出すことができるように指導してきた。
- ◆幼児の実態から、適切な指導をしたことで幼児の姿に変化が見られている。引き続き、幼児の実態を受け、どのような経験が必要なのか指導方法を考えていく。また、保護者に対して幼児が今どの段階で何を体験しているのかわかりやすく成長を伝えていく。
- 京橋朝海幼稚園からいただいたカブトムシの幼虫・カタツムリなどの虫や、土作りから行った栽培物のお世話を毎日継続して行うことで、自分たちの身近なものとなり、変化に気付いたり自ら観察したりする様子が見られるようになった。
- ◆一人幼虫一匹ずつケースに入れて名前を付ける等、自分の身近な存在にすること、見たいときに見られるということが幼児にとっては大切にしようとする存在になることを実感した。進んで自分たちでお世話できるように、継続して環境を工夫する。

重点目標 3 のびのびと体を動かし、たくましい心と体を育む

- 評価項目 ①運動遊びへの意欲を喚起し、体を動かす気持ちよさを感じられるよう、多様な運動遊びができる機会や場を準備する。
 ②校庭や体育館、小公園等を活用し、継続的に運動遊びをする中で、挑戦する姿勢を促す。
 ③地域への散歩や徒歩遠足の機会を設け、基礎体力をつける。

- 評価指標 ①走る、跳ぶ、踊る、ボール遊び等すすんで体を動かし、体を動かす楽しさを体感している。
 ②運動遊びに興味・関心をもち、自分なりの目的に向かって取り組んでいる。
 ③計画的・継続的な取り組みを通し、体力が向上する。



<達成状況>

- ・「十分達成している」が100%の評価をいただいた。

<取組状況（○）及び今後の改善方策（◆）>

○昨年度、①計画的に運動遊びを実施することが難しかったこと、②少人数のため集団での運動遊びを楽しむための工夫が必要であること、③保護者への発信が不足していたことが課題だったために、それぞれの課題について、①年間指導計画に位置付け、幼児の実態と照らし合わせながら週案で計画して取り組む②近隣の幼稚園・保育園、併設小学校との交流時を利用し、集団での運動遊びに取り組める機会を計画する③降園時に写真やルクミーで保護者に伝えるだけでなく、親子運動遊びや保育体験など実際に幼児と一緒に運動遊びを体験する場を設け、幼児が経験していることを伝える機会とする等、取り組み方を工夫した。

◆③の効果が高く、保護者にとって幼児と一緒に体験することでより教育活動を理解する機会になったと考える。まだ不足している運動遊びがあることで自己評価されている。3学期に計画して取り組み、幼児の経験不足にならないようにするとともに、来年度の計画を見直す機会にしていこう。

2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

<保護者アンケート全体の評価より>

設問 1： 幼児は幼稚園に行くことを楽しみにしている。

設問 2： 幼稚園は、幼児の年齢に応じて園生活に必要な生活習慣を身に付けている。

設問 3： 教職員は幼児をよく理解して指導にあたっている。

設問 4： 教職員は協力して、あたたかく幼児の指導にあたっている。

設問 5： 幼児は明るく伸び伸びと幼稚園生活を送っている。

設問 6： 幼稚園は幼児が体を動かして遊ぶことや自然に触れる経験にすすんで取り組んでいる。

設問 7： 子どもは年齢に応じて、していいこととしてはいけないこと等の規範意識を身に付けさせている。

設問 8： 幼稚園は幼児が幼児同士や身近な人とのかわわりを大切に保育を展開している。

設問 9： 幼稚園は幼児の年齢に応じて思いやりの心や命を大切にする心を身に付けさせている。

設問 10： 幼稚園は幼児の安全を守る取組をすすんで行っている。

設問 11： 幼稚園は保護者にとって相談がしやすく、親身になって対応している。

設問 12： 幼稚園は家庭への連絡や情報の提供（各種たより・ルクミー・降園時の連絡・保護者会・参観後の面談等）に努め、すすんで子育て支援を行い、家庭とともに幼児を育てる体制づくりをしている。

設問 13： 園舎内外の清掃・整理などの環境整備が行き届いている。

設問 14： 併設の小学校や近隣の保育園との連携が積極的に行われている。

設問 15： 未就園児の会の実施やホームページでの教育活動の発信、ピアッザ（地域コミュニティアプリ）の利用を通して、地域に開かれた運営が行われている。

設問 16： 保護者は保育体験で幼児と一緒に活動したり、サンサンキラキラデーで読み聞かせの会に参加したりなど、幼稚園の教育活動に積極的にかかわっている。



<達成状況>

・「よくあてはまる」「あてはまる」の合計が100%であり、達成できたと評価できる。「よくあてはまる」の回答が昨年度75%→今年度97%と評価が上がり、高い評価となった。

<取組状況（○）及び今後の改善方策（◆）>

○昨年度の反省をもとに、今年度は交流先を保育園も視野に入れ、計画的に様々な人との関わりがもてるよう実践してきた。保幼小との連携について、保護者から高い評価をいただいた。自己評価では、実践できたことは評価されているが、計画的に実施するための方法に課題が残った。

◆併設小学校とは交流・連携の年間計画として教育課程には位置付けてきたが、大まかな時期設定となっており、詳細はその時期に幼稚園から声を掛けて実施する形であった。見通しをもちにくく、計画が立てにくかったため、来年度からは年間行事予定にあらかじめ日程を組み込むことで、お互い見通しをもって、計画的に進めていけるようにする。

◆来年度は4歳児単学級での運営となるため、今年度のような形での幼保連携は難しくなるため、今年度中にその旨を関係各所に伝えておき、自園が落ち着いた2学期頃からは計画的に交流を実施する方向で進めていく。

○保護者への発信方法として、昨年度から始まった園務システム「ルクミー」を使用して、日常の教育活動の様子を発信するとともに、昨年度第三者評価委員で話題となった少人数ならではのタブレットで動画を見せる発信方法を実施した。

◆カレーパーティーや電車遠足から遊園地ごっこの様子などは、保護者が参観することが難しい活動のため、タブレットを使って動画を2～3人の保護者で見ることは教育活動の意図や様子を伝えることに有効であった。

○教育活動を幼児と一緒に体験する「保育体験」や月1回お子さんに読み聞かせする機会の「サンサンキラキラデー」は、昨年度同様、保護者から高い評価を受けている。今年度は新たに幼児が経験したものを保護者だけで経験・体験する機会（「七夕飾りを作ってみよう」「スポーツデーに使う風船膨らましのお手伝い」「遠足で拾ってきた枝を使ったリース作り」等）を設けた。作業の中で話をする機会となり、保護者の交流の機会ともなった。

◆来年度からは預かり保育が始まることで、保護者の教育活動参加について、様々な制約が出てくると考えられる。1年目となるため、今までしてきたことをいかに工夫して実施するか問われている。様々な実態を捉え、在籍する幼児・保護者にとってよりよいものとなるように計画していく。

○未就園児の会や地域への情報発信について、保護者評価が一番低かった。未就園児の会は年間を通して12回実施したことで、回数を重ねる毎に周知され、参加者が増えた。また、単学級のため、在園児にとっても年下の友達と関わる機会としたり、教育活動を体験してもらったりすることができる場として泰明幼稚園を知るツールにすることができた。未就園児の会の実施を知ってもらうこと、ホームページを見てもらい、教育活動に関心をもってもらうことが課題である。

- ◆ホームページでは、より泰明幼稚園の教育活動に興味をもってもらえるよう、トップページに活動の様子を掲載するとともに、年間を通しての活動の様子を今年度同様掲載していく。また、地域の方がホームページに辿り着くまでが課題となっているため、園だよりや未就園児の会のちらしなどにホームページのQRコードを掲載するなど、見ていただけるように工夫していく。
- ◆未就園児の会の実施方法として、今年度の反省を生かし、実施前にホームページに掲載するだけでなく、作成しているチラシを、児童館や中央区の施設に送付しておいてもらう、在園児保護者にも協力を得て、地域で掲示できる場所に掲示してもらう等、周知の方法を工夫していく。また、新入4歳児の単学級のため、在園児が落ち着く時期を見て今年度同様、在園児と関わる機会や教育活動を体験してもらう機会をつくっていく。